館報 中原中也記念館

1997 第2号

撮影　吉満　聡 氏

目次

■分館と中庭……1
■舞台公演を「魅せられて中也詩」に決める迄　加藤燿子…2
■運営協議会委員の交替……2
■公開講座　詩人に近づけたような…　福田百合子…3
■中原中也記念館公開講座の記録……3
■企画展　中也の軌跡Ⅲ「寒い夜の自我像」とその周辺　……4
■中原中也生誕90−1年祭……4
■中原中也記念館の記録……5
■寄贈・寄託資料……5
■新資料紹介……6
■聞き語り　中也ゆかりのひとびと②…7
■トピックス　土の中からガラス瓶　……7
■お知らせ……8

記念館増築工事

分館と中庭

中原中也記念館も開館からまる三年が過ぎ、四年目を迎えました。

昨年の秋から、記念館の増築工事が行われ、記念館に隣接して念願の分館が完成しました。これまで必要性を感じながらもスペースの都合で持てなかった調査・研究の場所、会議・講座などを開く部屋をこれで確保することができます。

また、この増築工事に伴い、県道側に面した場所に中庭が拡張されました。それまでは通りから見ることができなかった記念館の建物が、道路沿いからも望めるようになりました。

設計は記念館本館のときと同じく、株式会社プランツアソシエイツの宮崎浩さんです。

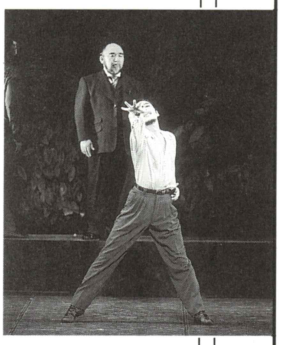
設計者略歴

宮崎　浩（一級建築士）

早稲田大学理工学部建築学科講師
京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科非常勤講師

一九五二年　福岡県生まれ
一九七五年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
一九七七年　早稲田大学理工学研究科修士課程修了
一九七九年（〜八九年）　株式会社槇総合計画事務所勤務
一九八九年　株式会社プランツ建築デザイン事務所設立（九一年　株式会社プランツアソシエイツに改称）
一九九二年　中原中也記念館公開設計競技最優秀
一九九四年　中原中也記念館の設計により、一九九四年新日本建築家協会新人賞を受賞

舞台公演を「魅せられて中也詩」に決める迄



現代舞踏家
加藤燿子

振り返る事はあまりない私なのですが、ふと気がつきますと、昨年、指導歴五十年、踊り始めより数えますと六十三年にもなりましょうか、今回はそれなりの節目をと思いました。そこで本当に久々の、三十八年目の単独上京公演を決めましたのは一年半前、さて、作品は何をと考え始めました。

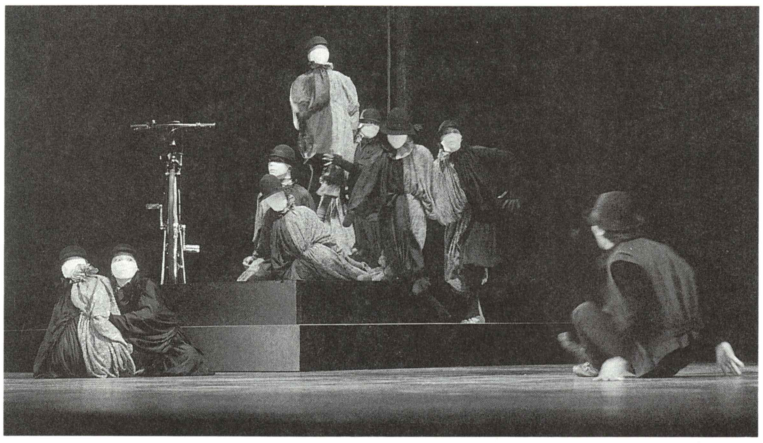
私の作舞には二本の柱がありまして、一つは社会風刺を題材に“現代のおとぎ話シリーズ”原爆の一粒の雨に始まり、物価値上りの一体どこまで等々、ともう一本の柱は“ふるさとシリーズ”芳一幻想、山頭火、金子みすゞ、中でも中也詩との拘りは昭和二十七年、詩話会の依頼で「正午」を演じまして以来、文化協会の創作など、折にふれて十七曲、いつの間にかライフワークになって居りました。

何故？　と考えて見ました。他のテーマは何作かを創りますと一応マスター出来た気持になれるのです。反して中也詩は同じ詩でも取り上げる度に違った型にも創り上げられます。こちらの身勝手な解釈も平然と御自由にと受け入れて貰えるように思えるから不思議、小さなテーマで大きいことを、奥が深いのか、底なしなのか、そのあたりに魅せられて創り続けているのかもと思えて参りました。そこで題名は「魅せられて中也詩」

作品は何年も前から何回もの三曲「幻影」「生ひ立ちの歌」「別離」、殆ど始めてと言って好い「汚れつちまつた悲しみに……」をメイン作品に、最後に現代舞踊フェスティバル優秀賞受賞作品「春日狂想」の五曲をオムニバス形式で、プロローグとエピローグに伊藤拾郎氏のハーモニカ、高橋恵子さんに朗読、末廣正巳先生他御二人に歌、いま輝いている男性舞踊手三人の賛助出演も得、昭和初期の頃を彷彿とさせるような舞台が仕上がりました。

昨秋十月九日山口、二十三日東京、両会場共に多くの皆さまに御来場頂けました。この上の御願はその方々の御心の何處かに詩と共に御記憶頂く事が出来、何かの折に思い出して頂ければ作者冥利につきると申せましょう。

（H九年一月二十日記）



「幻影」より

◆加藤燿子氏

山口県生まれ。石井漠研究所に入門。江口隆哉、宮操子にも師事。一九五四年より山口市で加藤舞踊学院を主宰する。

このたび「魅せられて中也詩」の舞台で第十四回江口隆哉賞を受賞された。同賞は現代舞踊の最高賞で、地方の舞踊家が受賞するのは加藤氏が初めて。

運営協議会委員の交替

●記念館が文化振興財団に●

平成八年四月一日付で財団法人山口市文化振興財団が発足し、山口市の直営だった中原中也記念館は山口市文化振興財団によって運営されることになりました。

これに伴い、運営協議会委員の原克昌委員（山口市経済部長）に替わって新たに水野武彦氏（同企画財政部長・山口市文化振興財団常務理事）が委員に就任しました。

また、平成八年の四月一日、運営協議会が発足して満二年を迎え、委員の任期（二年）が満了しました。前述の原氏を除く八名の委員はみな再任されました。会長は佐藤泰正委員が引き続き務められます。

会長　佐藤　泰正（梅光女学院大学学長）
委員　北川　透（詩人、梅光女学院大学教授）
委員　佐々木幹郎（詩人）
委員　和田　健（山口県詩人懇話会顧問）
委員　三好　郁子（山口詩話会会長）
委員　中原美枝子（遺族）
委員　井上　洋（山口市教育長）
委員　水野　武彦（山口市企画財政部長、山口市文化振興財団常務理事）
委員　福田百合子（中原中也記念館長）

（敬称略）

公開講座

詩人に近づけたような…

中原中也記念館長　福田百合子

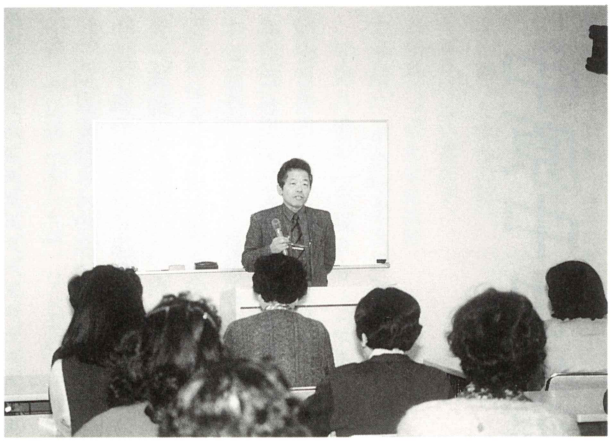
記念館が主催して初めて行なった公開講座です。「中原中也の会」の全面的な協力をいただいて、創刊号の「中原中也研究」をテキストに使用することになりました。本来ならば記念館を会場に出来れば一番よいのですが、何しろスペースがないので、なるべく近くということで湯田公民館の一室をお借りしました。椅子や机を移動しての手造りの会場ですから、収容人員にも限りがあり、五十名くらいを目処に募集しましたところ、多数の応募があり、終りにはお断りするほどでした。一～二割の欠席を見越して七十名前後受け付け、当日一度限りの方たちにもなんとかお入りいただきました。

第一回、梅光女学院大学学長佐藤泰正先生は、「中也・賢治・山頭火」のプリントを配布の上、宇宙観、生命律について論じられました。三者に共通する面と、各自の特色について、独特の熱っぽい語り口に一同ひき込まれてしまいました。十五時終了の予定だったのですが、終りに「私の好きな中也の詩を」とおっしゃって、歌うように朗読、次々と尽きるところなく、三十分超過。「思い入れが強いんです」の言葉通り、正に中也と一体化した生命律に聞きほれたことです。

第二回、福田百合子の「中也の周辺」の人たちの紹介は、初版本「山羊の歌」を中心にした解説。作品「時こそ今は……」のプリントを配布し、長谷川泰子、中垣茂樹のエピソード、ボードレール、ランボー、ベルレーヌなどのパロディーや影響について述べ、古典的な用語としての「はなだ色・鈍色・群青・浅葱色」などをとり上げてみました。若山牧水と高森文夫についての雑談・雑感が主流になってしまったようです。

第三回、梅光女学院大学教授、詩人の北川透先生の「中也の新しい読み方」は、ダダイズムから入られました。「四国の山の中から出てきた、高橋新吉が初めて発信したダダ」という言葉は、愛知から山口県下関に居を移されたご自身と、山口盆地のまん中からの中也の発信に重なる感慨として受けとめられました。「罪と罰」のコピーを配布、ドストエフスキイと小林秀雄、北村透谷、太宰治、萩原朔太郎との関わりについて論及。それらの導入を踏まえて「中原中也の詩を読む」というプリントの中の「ダダ音楽の歌詞」「名詞の扱ひに」をとり上げ、例えば「一つのメルヘン」のダダを実に明快に指摘、一同、なるほどとうなずき、ほーっと感嘆の溜息をもらしました。

終了後、受講者の皆さんにアンケートの記入をお願いしました。詩人の読解の素晴らしさに、是非今後も中也の詩を読む会を続けていただきたいとの希望が圧倒的に多く、主催者側も大いに励まされたことです。「詩人に、一歩近づけたような気がします」という声が聞かれました。それにしても会場さがしには苦労しますし、皆様方にもご迷惑をおかけ致しますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



講演中の北川透氏

平成8年度 中原中也記念館 公開講座の記録

【場　所】湯田公民館（山口市湯田温泉）
【時　間】十三時三十分～十五時
【受講料】無料

第一回　十月二十六日（土）
演題「中原中也の魅力を語る－宮沢賢治、種田山頭火とともに－」
講師／佐藤泰正（梅光女学院大学学長）
〔受講者　五十四名〕

第二回　十一月九日（土）
演題「中原中也生誕90年を前にして－私の出会った中也ゆかりの人々－」
講師／福田百合子
（中原中也記念館長）
〔受講者　四十三名〕

第三回　十一月三十日（土）
演題「中也の新しい読み方－詩集『山羊の歌』より－」
講師／北川透
（詩人、梅光女学院大学教授）
〔受講者　四十四名〕

この公開講座は中原中也の会の協力で催され、会員内外から定員を上回る申し込みがありました。地元の山口市民を中心として県内各地や隣県からも受講生が訪れ、中には関東など遠方からの参加者もありました。

当日は資料のプリントが配布されましたが、講座のテキストとしては『中原中也研究』創刊号を使用しました。

平成九年度もわかりやすく親しんでいただける講座を目標に、引き続き公開講座を計画したいと考えています。

企画展 中也の軌跡Ⅲ

「寒い夜の自我像」とその周辺

企画展「中也の軌跡Ⅲ」が平成八年十月十七日（火）から十一月二十四日（日）まで中原中也記念館で開催されました。

今回は〈「寒い夜の自我像」とその周辺〉と題して、中原中也が大岡昇平たちと同人誌「白痴群」で活躍した昭和四～五年を中心に取り上げました。

企画展の準備に際して、運営協議会委員の北川透氏（詩人、梅光女学院大学教授）と中原中也記念館の福田百合子館長に監修をお願いし、内容の充実に努めました。

展示は次の四つの部分で構成されました。

1、「寒い夜の自我像」

詩「寒い夜の自我像」などを書いたノート（「ノート少年時」）やこの詩について述べた著書などを展示しました。この「寒い夜の自我像」は中也が活躍した同人誌「白痴群」の創刊号に掲載されています。

2、文学仲間との出会い

大岡昇平、河上徹太郎、古谷綱武ら「白痴群」の同人仲間となった八人の友人たちを、それぞれの関係書籍や、中也から彼らに宛てて書いた評論の原稿などで紹介しました。

3、同人誌「白痴群」

中也が中心となって活動を展開した同人誌「白痴群」の原本を展示。また、その復刻版や掲載作品の原稿、「白痴群」について触れた中也の自筆のノートなどを展示しました。

また、彫刻家の高田博厚との交流についても触れ、高田博厚の製作による中原中也像を展示しました。

4、雌伏の時代

「白痴群」の廃刊後、自ら「雌伏」と表現した時代の中也を、同人仲間であった河上徹太郎の活躍や小林秀雄の「様々なる意匠」による文壇へのデビューなどとともに示しました。

同時に開催した新収蔵資料展では、中原中也による正岡忠三郎宛の書簡や小出直三郎宛の書簡、詩集『山羊の歌』の購読者予約はがき、署名本、初版本、写真等を公開しました。

貴重な資料のご提供をいただいた皆様、資料の展示をご快諾くださった遺族の皆様に、改めて感謝申し上げます。

中原中也生誕90－1年祭

〈平成八年四月二十九日〉

三回目を迎える中原中也の生誕祭が、中原中也の誕生日にあたる四月二十九日に開催されました。市民グループ「平成DADA実行委員会」が開催しているイベントで、会場となった山口県維新百年記念公園野外音楽堂には全国から中也ファンが集いました。

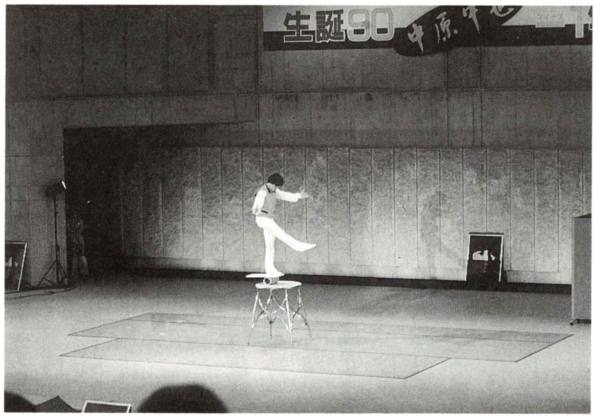
平成八年は「生誕90－（マイナス）1年祭」、中也が生まれて八十九年めの年でした。

最初に中国人の張静さんの空中ブランコや曲芸のサーカスに会場がどよめきました。続いて全国から寄せられた約百五十篇の詩の中から、第二回朗読詩大賞に選ばれた東京都八王子市の江原千恵子さん（三六）が、受賞詩の「最後から二番目のまち針」を朗読されました。

KOUJIさんの歌、フェビアン・レザ＝パネ ピアノトリオの演奏で会場が盛り上がり、最後は歌人の俵万智さんと詩人で作家でもあるねじめ正一さんの詩の朗読がありました。俵さんの声に酔いしれ、ねじめさんのユニークな朗読で会場は笑いに包まれました。

雨に濡れた野外音楽堂でさまざまなアートが披露され、第一回から参加されている企画アドバイザーの詩人佐々木幹郎さんも加わって、フィナーレは出演者全員で中也の詩「サーカス」を朗読して幕を閉じました。

平成九年四月二十九日はいよいよ生誕90年祭を迎え、ますますの盛り上がりが期待されています。



サーカスの一場面

中原中也記念館の記録

■平成八年

三月三十一日　「中原中也記念館館報創刊号」発行
機関誌『中原中也研究』創刊号　発行

四月（～六月）　小展示「第一回中原中也賞」

四月一日　財団法人山口市文化振興財団が発足。中原中也記念館は山口市の直営から財団の運営に移行する。

四月二十八日　第一回運営協議会開催。
第一回「中原中也の会」発起人会（山口）
中原中也生誕祭　墓前祭（平成ＤＡＤＡ実行委員会主催）
第一回中原中也賞贈呈式（山口市教育委員会主催）
場所　ニューメディアプラザ山口
記念対談　「詩と歌と中原中也と」
対談者　佐々木幹郎、俵万智
出演　ドロシー・ブリトン（英訳詩朗読）　司麻郁子（シャンソン）
ＡＭＡトリオ（コンサート）　外

四月二十九日　中原中也生誕９０－１年祭（平成ＤＡＤＡ実行委員会主催）
場所　維新百年記念公園野外音楽堂
出演　俵万智、ねじめ正一、佐々木幹郎、フェビアン・レザ＝パネ　ピアノ
トリオ、ＫＯＵＪＩ、張静（チャン・チン）、第二回朗読詩大賞受賞者

五月五日　伊藤敦子氏より小林秀雄筆「帰郷」碑文（拡大複製）を寄贈。

五月十七日　正岡明氏より正岡忠三郎筆の中原中也宛書簡を寄託。

七月　小展示「中原中也研究書新刊本」

八月　小展示「音響（おと）になった中也の詩」

八月十七日　第二回「中原中也の会」発起人会（東京）

八月十八日　機関誌『中原中也研究』一般頒布の開始

九月　小展示「中也の本棚」

九月二十二日　「中原中也の会」理事会、第一回（平成八年度）総会、創立記念大会
場所　山口・ホテルニュータナカ
記念講演　「中原中也という場所」
講師　秋山駿（文芸評論家）
シンポジウム「いま、中也をどう読むか」
パネリスト　樋口覚、黒川創、佐々木幹郎（司会）

九月二十三日　「中原中也の会」文学散歩（山口市周辺）

十月十五日（～十一月二十四日）　企画展『中也の軌跡Ⅲ－「寒い夜の自我像」とその周辺－』

十月二十二日　中原中也命日　墓参り

十月二十六日　第二回運営協議会開催。
中原中也記念館公開講座（第一日）
演題「中原中也の魅力を語る　－宮沢賢治、種田山頭火とともに－」
講師　佐藤泰正（梅光女学院大学学長）
場所　湯田公民館

十一月五日　中原ふさえ氏より中原呉郎筆「三代の歌」原稿その他を寄贈。

十一月九日　中原中也記念館公開講座（第二日）
演題「中原中也生誕90年を前にして　－私の出会った中也ゆかりの人々－」
講師　福田百合子（中原中也記念館長）
場所　湯田公民館

十一月十四日　入館者十五万人突破

十一月十五日　朝日放送「驚きももの木２０世紀」中原中也特集を放映（「中原中也・天才詩人の悲劇」）

十一月三十日　中原中也記念館公開講座（第三日）
演題「中也の新しい読み方　－詩集『山羊の歌』より－」
講師　北川透（詩人、梅光女学院大学教授）
場所　湯田公民館

十二月　小展示「教科書に載った中也の詩」

十二月二十日　第二回中原中也賞応募締切り

十二月二十九日（～一月三日）　年末年始休館。

■平成九年

一月　小展示「中原医院の歴史」

一月十九日　「中原中也の会」理事会（東京・山の上ホテル）

二月（～三月）　小展示「記念館の建築とデザイン」

二月十八日　開館三周年
前庭の拡張工事、及び分館の完成。開門式。
第三回朗読詩大賞応募締切り（平成ＤＡＤＡ実行委員会主催）

二月二十二日　第二回中原中也賞選考会（山口・松田屋ホテル）
長谷部奈美江氏（山口県）の詩集『もしくは、リンドバーグの畑』（思潮社）が受賞。

寄贈・寄託資料

今年も多くの方々からご寄贈・ご寄託をいただきました。そのうちの主なものをいくつかご紹介させていただきます。

【寄贈】
○長谷川泰子・茂樹母子写真　中垣芽美氏
○小林秀雄書「帰郷」詩碑原本複製　掛軸　伊藤敦子氏
○中原フク筆「汚れつちまつた悲しみに……」色紙　三好安子氏
○中原フク（お茶会）写真　高村光子氏
○中原呉郎筆「三代の歌」（『海の旅路』所収）原稿　中原ふさえ氏
○「中原呉郎追悼集」　中原ふさえ氏
○ＫＲＹラジオ「中原中也を偲んで」（昭和四十年六月六日放送）録音テープ
（出演　中原フク、小林秀雄、大岡昇平、和田健）　和田健氏
○中原中也の名義による契約書（中原家家屋の貸借・昭和九年）　藤山輝明氏
○中原中也関連新聞記事（昭和十二年・昭和三十五年～平成三年）　中原美枝子氏

【寄託】
○正岡忠三郎筆／中原中也宛書簡　正岡明氏

その他、研究論文、著書、映像、音響資料等、多くの方々にご厚意をお寄せいただきましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

新資料紹介

現在、中原中也記念館で収蔵している資料の中に、これまでの全集で紹介されていない中原中也直筆の資料や、周辺の人々にまつわる貴重な資料があります。この欄ではそれらの資料を随時掲載していきます。

中原中也書簡

一、昭和九年四月二十六日　吉田進宛

（封書　巻紙一枚82×18　墨書）

表　山口市吉敷
　吉田進様
　　弔辞
裏　東京四谷花園町
　九ノ五花園アパート
　　中原中也
　四月二十六日
消印　四谷　9・4・28　前8－12

拝啓／承はり候へば伯母上様には／御急病にて突然／お逝くなり遊ばされ／候由一同驚入申候／皆々様さだめしお力／落しの御事と御察／申上候　日頃御元／気な伯母様のこと故／いまだにたゞ夢の／やうに存ぜられ候／思へば昨年の暮には／私共上京の節わざ／わざ御いで被下／難有き御言葉／など賜り候がお別れ／とは相成申候　誠に／人命のはかなさ感／じ入申候／先は右とりあへず御／悔みまで如斯に御／座候　頓首

四月二十六日

中原中也
孝子

吉田進様
伯母上様

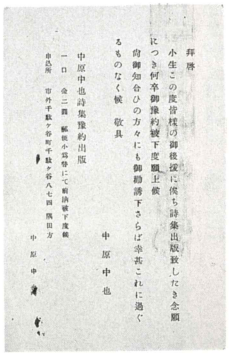
〔この書簡は昭和五十九年五月二十五日山口市吉敷上東町内会発行の「かみひがし」十五号（編集担当　升井卓弥）に掲載。
今回、原本を確認して再掲載した。〕
※吉田武氏寄贈

二、昭和七年六月十九日　小出直三郎宛

（はがき14×9　宛名ペン書　印刷）

表　市外砧村
　成城学園
　小出直三郎様
消印　淀橋　7・6・19　前0－8

拝啓
小生この度皆様の御後援に俟ち詩集出版致したき念願／につき何卒御豫約被下度願上候
尚御知合ひの方々にも御勸誘下さらば／幸甚これに過ぐ／るものなく候　敬具
中原中也詩集豫約出版
一　口　金二圓　郵便小為替にて前納
被下度候
申込所　市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷八七
四　隅田方
中原中也


拝啓
小生この度皆様の御後援に俟ち詩集出版致したき念願
につき何卒御豫約被下度願上候
尚御知合ひの方々にも御勸誘下さらば幸甚これに過ぐ
るものなく候　敬具
中原中也詩集豫約出版
一口　金二圓　郵便小為替にて前納被下度候
申込所　市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷八七　四隅田方
中原中也

正岡忠三郎書簡

一、昭和二年十二月一日　中原中也宛

（封緘はがき12・3×9・2〈31・2〉　ペン書）

表　東京府下中野町
　西町　三三九八
　関根氏方
　中原中也様
裏　今、中原君は歸国して家には
　居りません
　十二日投カン
　兵庫縣阪急西ノ宮北口合宿
　正岡忠三郎
消印　合□　2・12・13　后2－4

今夜急に思立って長崎へ／行って見ることにしました／今　姫路 ⟶ 岡山／特急にはじめて乗るんですが／大変らくですね／先日は御手紙ありがとう／さういはれると一寸困るんです／が僕は君を好きなんですし／唯どうも生活方法があんまり／違ふんですねコッチは益々／本音に安んじてゆきますし。／それに僕は恥づかしがりやだ／から自分のことを批評される／と、大勢の前で、困るんぢゃ／ないでせうか　尤も困らないと／いへば困らないし困ると／いへば困るんですが。／しかし本音に安んずると／云ひじゃうやっぱし自分の／好きなやうにして見る積りで／才二義的な努力がないわけ／ぢゃない。僕は非常に謙遜な／男ですから君流につきあって／下さればよい困ったら逃出し／ます　十二月一日夜
※正岡明氏寄託

注・□印は不明文字
・／印は改行
・正岡忠三郎書簡十二行目末尾に「らしき記号がある。

聞き語り

中也ゆかりのひとびと

第2回 白木美枝子

白木さんは学校の先生をされていたそうですね。

あれは私が十九歳か二十歳（大正十二年ごろ）になるね。女学校の四年を出て、県立山口高女の専攻科へ三年行って、今度は先生になって山口町立下宇野令小学校へ行ったね。この学校のことは、普通「しもう、しもう（下宇、下宇）」って言うて。しまいにゃあ湯田小学校になったね。

その頃のお話を聞かせてください。

下宇野令小学校の先生のときの話じゃね。ああ、中原中也。この人がね、よいよう意地悪でね。私ゃ、当時山口中学校のへりの方の、師範学校の方から、下宇野令小学校へ通ってた。反対に、中也は湯田から山口中学校へ行く。どこ辺で出会いよったやろかえ。途中で出会いよった。行きよって、はじめはどないもなかった。いっぱい「しもう」の学校を卒業した生徒が山口中学へ通うでしょ。その子達が五、六人、さあーっと私に礼をするの。「先生おはようございます。」私は恐れ入りよった。

やっぱり年は若くても母校の先生っちゅうんじゃあね。その子供らが、もとは下宇野令小学校の生徒じゃからよう礼をするの。はじめは恥ずかしいようなことで、仕舞いにゃあ慣れて、こっちからでも物を言うようになった。

そうこうするうちに、例の中也がね、何と思ったかね、通りよったら私のところへチョチョチョチョと、駈けて来てからね、「先生、先生」っちゅうけえ、「はあ」ちゅうたら、「先生はね、シャンじゃけどね、チビじゃな」って言うたから。その頃はべっぴんのことシャンとかビューとか言いよった。べっぴんは何じゃけど「チビじゃな」って本当の事を言うたけ、へえーっと思って顔を上げて見たら、向こうへさあーっと行ってチャチャチャチャチャ他の子と並んで行きよろう。私は胸くそが悪うてね。

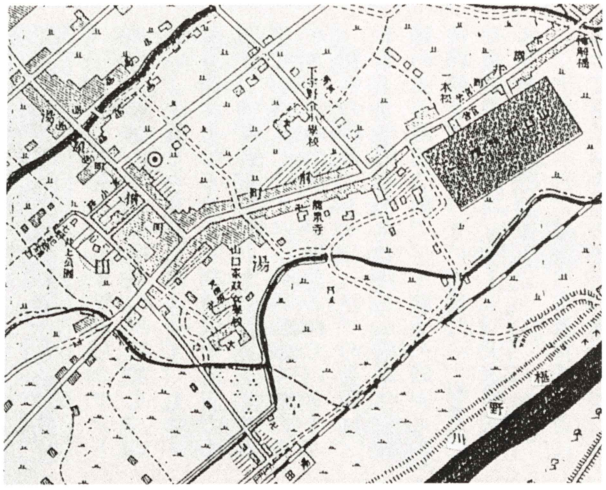
学校へ行ってすぐ、或る先生に「こういう事があったが、どこの息子じゃろか」って問うたら「わかった。ありゃあ中原のお医者の中也坊ちゃんじゃ」って。「中也坊ちゃんかなんか知らんけど、あげなこと言うてもろちょったら、ええ気せん」って私が言うたら、その先生「冗談いね」って。

その頃中也はどんな様子でしたか。

中也はね、顔は良うなかったよ。美男子じゃ決してない。背も高うないし。それでも、さっぱり姿を見せんようになって、しばらくしていっぺん見たことがある。ものは言わんかったです。その時はよいようきれいになっちょった。背も高うなってね。

一九九五年六月三十日　収録

（白木氏は、明治三十七年十二月五日生まれ。みんなが着物を着ていた時代、他の人より先に洋服を着始めた。帽子をかぶり、ワンピースを着ていたという。白木氏の娘さんは、当時白木氏が目立っていたから声をかけられたんだろうと言う。）



昭和初期の中原家周辺地図
⊙が中原家

この欄では、地元にお住まいの中也と関わりのあった方々にお話をうかがい、記念館で編集したものを連載いたします。取材にあたっては、和田健氏のご協力をいただきました。

◆トピックス

土の中からガラス瓶

中原中也記念館に隣接して増築される分館の工事中、土の中からガラス瓶が数十本出てきました。中には目盛の付いた瓶や「湯田医院」などの文字が浮き出たものがあり、昔ここにあった医院で使用した瓶と思われます。

中也の生家である「中原医院」は医院名を「湯田医院」と称していた時期がありました。また、父謙助の死後、ほかの医師に病院の施設を貸したときにも「湯田医院」の名が使われました。

中原中也の生家は現在中原中也記念館が建てられている場所にありました。当時の建物は、昭和四十七年五月に火事で全焼していますが、その焼け跡と思われる炭が地中で層になっていました。このほかにも、壊れた注射器の一部等がこの度の工事で見つかっています。

記念館では一月の小企画展で「中原医院の歴史」と題して、これらの空き瓶や中原家の人々が読んだ医学書、薬秤、写真などを展示し、紹介しました。

お知らせ

「中原中也の会」発足

平成八年九月二十二日、山口市内の会場で「中原中也の会」の創立記念大会が開かれました。この会は「中原中也を愛する者、研究する者、関心をもつ者がひろく交流し、中原中也とその作品について理解をふかめるための場をつくることをめざす」（会則第1章第3条）全ての人々に開かれた会です。

大会では、総会と理事会に引き続き、秋山駿氏の講演「中原中也という場所」、「いま、中也をどう読むか」と題して樋口覚、黒川創、佐々木幹郎の三氏によるシンポジウムが行われ、会員をはじめとして各地から集まった約百五十人の聴衆が熱心に聞き入りました。

また、翌日は文学散歩として中也ゆかりの地長門峡、中也の墓、鳴滝などを約三十名がバスでめぐりました。

会員数はその後も増加し、二九〇名、七団体に達しています（平成九年三月二十日現在）。

中原中也の会では、引き続き会員を募集中です。年会費は一般五千円（学生半額、大学院生含む）、法人会員が一口一万円です。

問い合わせ先
〒753
山口市湯田温泉一－一一－二一
中原中也記念館内
「中原中也の会」事務局
TEL（〇八三九）三二－六四三〇
FAX（〇八三九）三二－六四三一

☆☆第二回中原中也賞☆☆☆☆☆☆

長谷部奈美江さん
詩集『もしくは、リンドバーグの畑』

二月二十二日、第二回中原中也賞の選考会が山口市内の松田屋ホテルで開かれ、応募総数三百十九点（公募三百五点、推薦十四点）のうち最終選考に残った六点の詩集について協議がなされました。その結果、山口県下関市の長谷部奈美江さん（三七）の詩集『もしくは、リンドバーグの畑』（思潮社）が選ばれました。選考委員を代表して中村稔氏は「目眩を覚えるようなイメージの意外な展開、読後の楽しさがある」と評価されました。贈呈式は四月二十八日、山口市内で行われます。

長谷部さんは一九五九年九月六日、山口県生まれ。一九八五年度ユリイカの新人、一九八八年度第二十六回現代詩手帖賞、一九八九年度山口県詩人懇話会新人賞を受賞。詩集に『たかく、唇をひらきかげんに』（一九九〇年）があります。

（受賞詩集『もしくは、リンドバーグの畑』）

選考の経過は「ユリイカ」（青土社）の四月号に掲載、受賞詩集は英訳して刊行されます。

選考委員は前回と同じく、荒川洋治、北川透、佐々木幹郎、佐藤泰正、中村稔、吉田凞生（五十音順）の各氏でした。

いよいよ！中原中也生誕90年祭

三年前、生誕90－3年からカウントダウンを始めた中原中也の生誕祭も、いよいよ生誕90年祭を迎えます。しめくくりの年となる今年は四月二十七日から三十日までの四日間行われ、過去の生誕祭でお迎えしたゲストの再出演や新たなゲストとの出会いが用意されています。

初日の四月二十七日（日）の会場は、90－3年祭のときと同じ「帰郷」の詩碑のある高田公園で、午前十一時から午後四時まで、空の下の朗読会（一般参加）や福島泰樹絶叫コンサート、大道サーカス芸などが催されます。

二十八日（月）は山口市教育委員会によって第二回中原中也賞の贈呈式が行われ、詩人で作家の辻井喬氏の記念講演があります。

生誕日当日の二十九日（火・祝日）は、維新百年記念公園野外音楽堂で、午後一時から六時まで、詩人の朗読会やコンサート、朗読詩大賞の受賞者の表彰などが行われます。出演は谷川俊太郎さん、伊藤比呂美さん、佐々木幹郎さん、吉増剛造さん、マリリアさん、フェビアン・レザ＝パネさんなどのおなじみの顔ぶれに加えて、高橋睦郎さん、おおたか静流さん、梅津和時さん、太田恵資さん、海外からはアメリカの詩人ローゼンバーグさんが新たに参加されます。前売券は三千円（当日四千円）です。

最終日の三十日（水）には、山口市市民会館で午後六時三十分（開場六時）から加藤登紀子コンサートがあります。コンサートの入場料は五千五百円です。

お問合せは左記へどうぞ。

4月27・29日　朗読・コンサート等
〒753　山口市今井町四－二二
ラグタイム内
平成DADA実行委員会事務局
（☎〇八三九－二五－六八四三）

4月28日　中原中也賞贈呈式・記念講演
〒753　山口市春日町五－一
山口市教育委員会文化課
（☎〇八三九－二〇－四一一一）

4月30日　加藤登紀子コンサート
〒753　山口市中央二丁目五－一
山口市民会館内
山口市文化振興財団事務局
（☎〇八三九－三三－〇五〇五）

編集後記

中原中也の会の創立や分館の増築など、慌ただしいけれども活気に満ちた一年でした。

今回ご寄稿いただいた加藤燿子先生の「魅せられて中也詩」による江口隆哉賞のご受賞には心よりお祝い申し上げます。

さて、いよいよ中也生誕九〇年。記念館の活動も節目の年にふさわしいものにしたいと考えています。皆様のご支援をお願いいたします。

●発行　中原中也記念館　館報　第二号　平成九年三月三十一日
〒753　山口県山口市湯田温泉一－一一－二一　中原中也記念館
TEL（〇八三九）三二－六四三〇
FAX（〇八三九）三二－六四三一